

# 人権なら

2017年7月1日

第79号

NPO なら人権情報センター

● ひと・まち・生き生き

## 県研は9月2日に開催

### 第9回「差別と人権」研究集会に向け実行委

第9回奈良県「差別と人権」研究集会の開催に向けた第1回実行委員会が6月21日、田原本青垣生涯学習センターであった＝写真。



植村照子・理事長が「研究集会の開催に向けて皆さんと準備を進めていきたい。ご協力を」とあいさつ。

香川明英・専務理事が前回の研究集会の概要、記念講演、分散会の内容などについて、2月に開いた総括会議を基に報告。また、第1回以降の参加状況を説明し、確認した。

### 記念講演は長瀬修・立命館大学客員教授

協議事項では、要綱案に基づき、「呼びかけ」や開催日程、テーマなどのほか、記念講演や、2つの分散会について討議し、確認した。

日程は9月2日。場所は田原本青垣生涯学習センター。テーマは「激動する世界と日本。いまわしい差別と不当な人権侵害に異議申し立てし、より賢く、より強く、よりやさしく、自らが変わっていこう!」。記念講演は長瀬修さん(立命館大学客員教授)『『障害者』の人権と尊厳—『安楽死』計画から『障害者』権利条約と『障害者』差別解消法へ』。分散会テーマは『『相模原津久井やまゆり園』事件は、いったい何を突き付け、何が問われたのか』「子どもたちの育ちを街ぐるみで考え、地域の誰をも孤立させない人のつながりを生みだそう」の2つ。

第2回実行委員会は7月19日に開くこととした。

## 決算報告開示へ定款を変更

### 理事会・支局長会議のあと、臨時総会で承認

NPO法人なら人権情報センターは6月10日、三宅町中央公民館で第17期第1回理事会と拡大支局長会議を開いた＝写真。



山下力・副理事長が「皆さんと知恵を出し合っ  
て本法人の抱える課題に取り組んでいきたい」とあいさつ。香川明英・専務理事が諸議案を提案した。

報告事項では、2016年度事業の第16期総会、第8回奈良県「差別と人権」研究集会、第37回水平社敬老会、研究集会総括会議などを提案、承認した。

### 「本法人のあり方」について課題の整理へ

協議事項では、「本法人の今後のあり方」と「2017年度事業」を提案、協議した。「今後のあり方」については、第16期総会で課題整理に向けた検討委員会立ち上げと、支局活動についてのメニュー化づくりの協議促進を確認したが、進展しなかった。こうした課題を次期総会までに整理。提示することにした。

このあと、第17期臨時総会を開催。「NPO法改正による会計決算報告の開示義務化の実施のための定款変更」が提案され、「公告の方法」の改正を審議。

論議の結果、ほとんどのNPO法人がホームページ(HP)を開設し、様々な情報を提供している。会計決算報告の公告についても、HPの活用が多く、当法人もHPに掲載することを確認。定款変更の手続きを進めていくこととした。

## 各駅頭などで情宣活動

### 「やまゆり園から1年」集会への参加を呼びかけ

「奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」と、7月26日の「やまゆり園事件から1年」県集会についての情宣活動が6月20日、JR王寺駅前で行われた＝写真。次回は7月13日(木)午後1時半、近鉄奈良駅前で行う。



「相模原やまゆり園事件から1年」県実行委員会は6月6日、奈良市「はぐくみセンター」で、7月26日の集会に向け、討議。情宣活動なども決めた。

【集会呼びかけ】19人もの障害者が殺され、26人が重傷を負った相模原市のやまゆり園の事件から1年がたとうとしています。なかまの命は戻りません。殺されなかったなかまと職員の恐怖はいまだ癒やされることはありません。ニュースを聞いた全国各地で暮らす障害者のなかまたちも、あまりにも大きな衝撃と恐怖に戸惑いました。こんなことは二度と起きてはいけません。「障害者は不幸しか生まない」などと言わせない社会を作っていきたい。障害者が地域で胸をはって、堂々と生きていける社会にするために、今、何が足りないか。みんなで考え、いっしょに声を上げてください。事件から1年目の7月26日、私たちは集会をします。

**集会名称:『やまゆり園事件から1年』地域で暮らしていくために、今、何が足りないか**▽日時:7月26日 午後6時30分▽場所:奈良市立中部公民館大ホール▽主催:「相模原やまゆり園事件から1年」奈良実行委員会・障害者差別をなくす条例推進委員会

## 子ども食堂のネットワークを

### なら人権情報センターも情報交換会に参加

奈良子ども食堂ネットワーク準備会が6月13日、奈良市内で「こども食堂情報交換会」を開いた＝写真。なら人権情報センターも研究会で関係者を招き、論議してきた経緯もあり、参加した。



情報交換会は県社会福祉協議会と県生協連が共同で事務局を担い、事務所は社会福祉協議会に置いている。この日の会合は、情報交換や加入促進を目的に開催された。

県内での子ども食堂は2015年12月、「こども食堂いかるが」が最初に取り組んだ。その時点で、立ち上げを計画していたのは4、5団体。この日、出席したのは20数団体。計画の中を含めると30団体程度になるといふ。この1年余で急速に広がっている。

### 活動者が悩みや工夫を分け合い、意見交換

会合は活動団体の自己紹介から始まり、その中で出たキーワードから、今、何が課題で、何に悩んでいるのか、などを課題別に仕分け、ホワイトボードに書き入れていった。

そして、悩みや工夫を分け合おうと、食材の調達方法や子どもへの呼びかけ方法など、それぞれが抱える悩みや協力者の拡大などについて情報交換した。

この準備会は、2月にあった生協連呼びかけの情報交換会を機に、“ゆるやかなつながり”の必要性を確認。3月から、月1回、会議を重ね、県域ネットワーク化へ向けて発足した。

今後、ネットワーク化の推進や、情報や意見交換会のほか、8月26日開催の「なら小地域福祉活動サミット2017」で特別分科会として設立フォーラムを開き、併せてネットワークの正式設立をめざす、としている。

## 山下力さんが「わが半生」語る

### 障害者福祉に関わる人たちに「差別問題」提起

障害者福祉に関わる人たちで組織する東和圏域ネットワーク「スタートライン」は6月20日、あざさ苑で勉強会「ヒメボタルに照らされて」を開催。講師の山下力さんが「被差別部落のわが半生」をテーマに話をした＝写真。



山下さんは自身の生い立ちから話を始めた。父親から「ムラを隠せ、靴屋を隠せ」「一生懸命勉強してムラから出て行け」言われたエピソードや、中学時代に部落差別と出会ったことなど、「隠す、逃げる」の青春時代だった、と語った。

その後、部落解放運動との出会いと、以降の活動を支えた「初めての糾弾会との出会い」のことや、65年「同対審」答申の理念などについて話をした。

そして、「部落内外の格差は解消したが、部落差別は存続している」という現実を踏まえ、「それまでの運動への根本的な懐疑と運動方針の転換」を図ってきた。「部落民もまた差別をする。人間は誰しもが差別したり、差別されたりする存在である」と考え、「部落問題を政治課題ではなく、地域社会の課題」と位置づけ、活動を推し進めてきた、と語った。



### 差別をめぐる、若い参加者から率直な質問

また、アメリカ国務長官(クリントン政権下)に女性で初めてなったオルブライトさん(ユダヤ系で、祖父母3人を含め、親戚多数がホロコーストで殺害されている)のことや、アメリカの「公民権法」(黒人差別を禁止する法律)成立の礎を築いたケネディ大統領の暗殺(196

3年11月)に驚愕し、号泣したことなどを話した。

このあと、質問を受けた。若い人たちの参加が多く、「お父さんが部落を隠せと言ったことで、その後の人生において良かったと感じることがありますか」「私は帰国子女で、日本に帰ってからいじめや差別に遭いましたが、外国での生活ではそういったことはなく、暮らしやすかった。山下さんには外国人の友人がいますか」「お話の中でくよつ」という言葉が差別にあたると言われたが、どうして差別になるのですか」「同じ人間なのに、なぜ差別が起きるのでしょうか」などが出た。

これらの率直な質問に山下さんは一つずつ丁寧に答えた。山下さんの語った「部落問題」や差別をめぐる問題は、日々、障害者の支援の活動している人たちの胸に、どのように届いたのだろうか。機会があれば感想などを聞いてみたい。

\*\*\*\*\*

## 「共謀罪」法強行採決に抗議

「共謀罪」法が6月15日早朝、成立した。参議院法務委員会での採決を「省略」し、本会議で採決を強行した。多くの人々の反対の声を黙殺。「森友」「加計」問題を隠蔽し、「都議選」前での政治決着を急いだと、批判の声が渦巻いた。



奈良でも、「戦争をさせない1000人委員会」をはじめ、多くの市民団体が抗議行動＝写真。5月20日には、「共謀罪」反対集会とデモがJR奈良駅前であった。6月16日にも、



「共謀罪」法強行採決に抗議する緊急集会があり、約150人が結集。市内をデモ。今後も闘い続けることを誓い合った。

## 沖縄で起きている問題？

### 映画「標的の島 風かたか」が突きつける現実

映画「標的の島 風(かじ)かたか」を大阪・十三にある第七芸術劇場で観た。「風かたか」とは、沖縄の言葉で「風よけ」「防波堤」を意味する。「標的の村」「戦場ぬ止み」を撮った三上智恵・監督の作品だ。

冒頭は2016年6月19日、那覇で開かれた県民大会。20歳の女性がジョギング中に米兵に殴られ、暴行され殺害された事件への抗議集会だ。古謝美佐子さんが歌う「童神(わらびがみ)」が静まり返った会場に三線の調べとともに満ちていく。子の成長を願う母の気持ちを歌ったものだ。



被害女性の地元市長、稲嶺進さんは「また、一つの命を守る風よけ、『風かたか』になれなかった」と涙した。深い慟哭と涙が会場に広がる。1995年の「少女暴行事件」で大きな悲しみに包まれた沖縄。その時、生まれた子を守れなかった悔しさが、我が身を焦がす。

### 編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

世界72位。日本の「報道の自由度ランキング」だ。先進7か国で最下位。2010年は11位だった。「強い日本」をめざすとして、特定秘密保護法、集団的自衛権の行使容認、戦争法、盗聴法、電波停止発言など、次々と打ち出す政策がランクを下げ続ける。今回の共謀罪法の強行成立で、さらに下がることは必至だ。政府は国民にテロの脅威を「印象操作」し、共謀罪法を成立させた。共謀罪は警察に強大な権力を委ねる。一般国民も「印象捜査」によって監視され、取り締まりが強化される。人権を著しく侵害する共謀罪法は廃止に追い込まないといけない。声を上げ続けたい。

映像は米軍のヘリパット建設反対の戦いが続く高江や、辺野古での戦いを映し出す。さらに、舞台は先島諸島にある宮古、石垣に移る。防衛省が2015年5月、沖縄本島、宮古、石垣島に「地对艦ミサイル」を配備すると発表。中国を封じ込めるアメリカの軍事戦略に則り、先島諸島を軍事要塞化するのがねらいだ。

宮古では、お母さんたちが「ていだぬふあ〜島の子の平和な未来をつくる会」を立ち上げ、活動する姿。石垣では、唄者(うたしゃ)、山里節子さんらの「いのちと暮らしを守るオーバーたちの会」が登場する。石垣民謡「とぅばら一ま」を歌うシーンは胸に染みる。

三上監督は「この映画を観た人は、これは沖縄で起きている問題ではなくて、自分の危機なんだと必ず気づく」と話す。ぜひ、観てほしい映画だ。

\*\*\*\*\*

### 三宅町学童保育で「紙芝居」

三宅町学童保育クラブは6月19日、鈴木常勝さんの「紙芝居」を催した=写真。鈴木さんは週末、大阪市内の長居公園や住吉公園で「紙芝居屋」を続ける。45年になるという。大学で「人権」をテーマに講義をし、紙芝居の研究も続けており、著作も多い。



子どもたちは夢中となり、「ちょんちゃん・失敗の巻」には大爆笑。「怖いはなし」では、耳を両手で塞ぐ子や、目を覆う子など、ギャー、キャーと賑やかだった。

<お詫びと訂正>前号で、在日本済州四・三事件遺族会会長 呉光現(オ・クワンヒョン)さんの名前が間違っていました。

### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/